

ファンドマネージャー・アナリストコラム

運用会社の日常

りそなローカルインパクト投資への道 第1回 そもそも、インパクト投資ってナニ？



りそなアセットマネジメント株式会社
株式運用部
チーフ・ファンドマネージャー 羽生雄一郎

はじめまして。今回より新しく「りそなローカルインパクト投資への道」というタイトルで連載させていただきます、羽生雄一郎と申します。

インパクト投資。なかなか耳慣れない言葉かもしれませんが、なるべく皆様にとって身近に感じていただけるように、一生懸命ご説明していきたいと思っております。どうぞ最後まで、よろしくお願い致します。



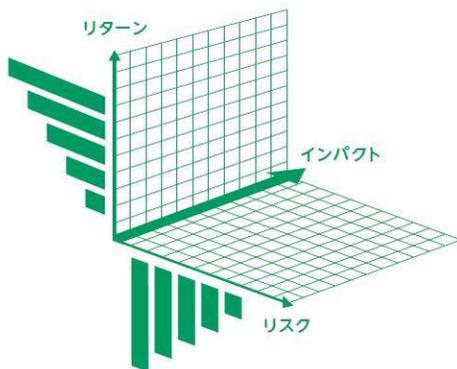
そもそも、インパクト投資ってなに??

運用収益に加えて、
社会に良い影響を生み出すことを目指した投資です！



一般的な運用収益を追求する投資では「リターン」と「リスク」の2つの側面から評価が行われています。これに「インパクト」という新しい評価軸を取り入れたのが「インパクト投資」です。ここで言うインパクトとは、社会課題や環境問題の解決に貢献するなど、社会に良い影響を生み出すことを指しています。

投資を行うということは、投資先の活動を財務面・金銭面から支援することを意味します。そのため、投資を検討する際に候補先がもたらし得るインパクトを評価し、その結果を考慮して投資を決定することが、よりよい社会をつくることにつながっていくと考えられています。



社会的インパクト

経済的リターン





インパクト投資とESG投資の違いは??

インパクト投資の特徴は、インパクトを生み出すことを目的に掲げている点です!



最近ではESGやSDGsといった言葉を日常的に耳にするようになってきましたが、投資の世界では「ESG投資」が活発化しています。ESG投資はESG（環境・社会・企業統治）の要素を組み込んだ投資のことを指し、ESGを考慮して投資先を選別したり、投資先との「建設的な対話」を通じてESGへの配慮を促したりといったことが一般的に行われています。

インパクト投資とESG投資との間には、環境や社会への影響を考慮するという類似点があります。一方で、インパクト投資にはESG投資と異なる明確な特徴があります。それは、**環境や社会への影響を考慮するにとどまらず、環境や社会に良い影響をもたらすこと、すなわちインパクトを生み出すことを「目的」に掲げている点**です。

こうした特徴は、投資プロセスの細部の違いにも表れています。例えば、企業に投資する場合には「目的」に照らしてビジネスモデルの妥当性を評価したり、あるいは「目的」の達成度合いを「インパクト評価」として定量的・定性的に分析したり、といったことが行われます。また、インパクトを「目的」に掲げていることは、運用収益を獲得する上でも大きな利点があるのですが、この点については第2回以降でご説明したいと思います。

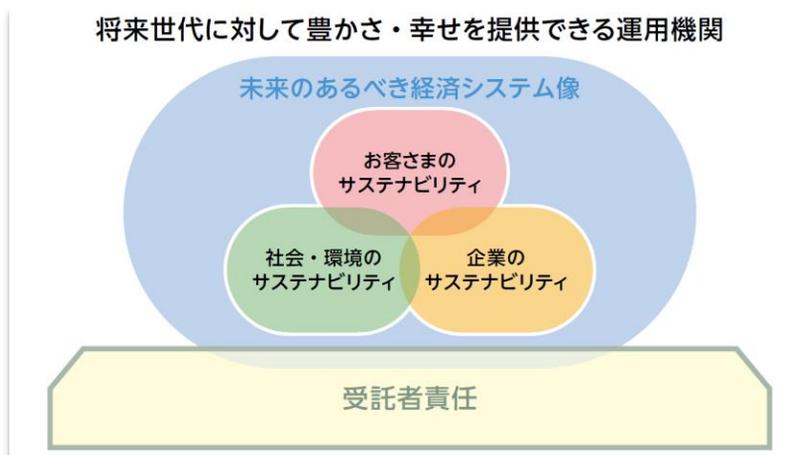


りそなのインパクト投資とは??

りそなではまず、日本の社会課題に焦点を当てたインパクト投資ファンドを設定しました!



下に示した図は、りそなアセットマネジメントのパーパス（存在意義）を表しています。



私たちはありたい姿として「将来世代に対して豊かさ・幸せを提供できる運用機関」を掲げ、長期的な資産形成を通じてお客さまのサステナビリティに貢献するとともに、企業のサステナビリティ、社会・環境のサステナビリティを同時に実現していくことを目指しています。

将来世代に対して豊かさ・幸せを提供するために行き着いた答えが、日本の（＝ローカルの）社会課題を解決することを目的に掲げた「ローカルインパクト投資」です。日本には、少子高齢化や災害激甚化などを背景として、将来世代の負担や不安の増大、ひいては豊かさ・幸せを脅かすリスク要素が多数存在しています。これらはお客さまや企業のサステナビリティを実現する上で、避けては通れない社会課題です。

インパクト投資による課題解決 (社会的インパクト)



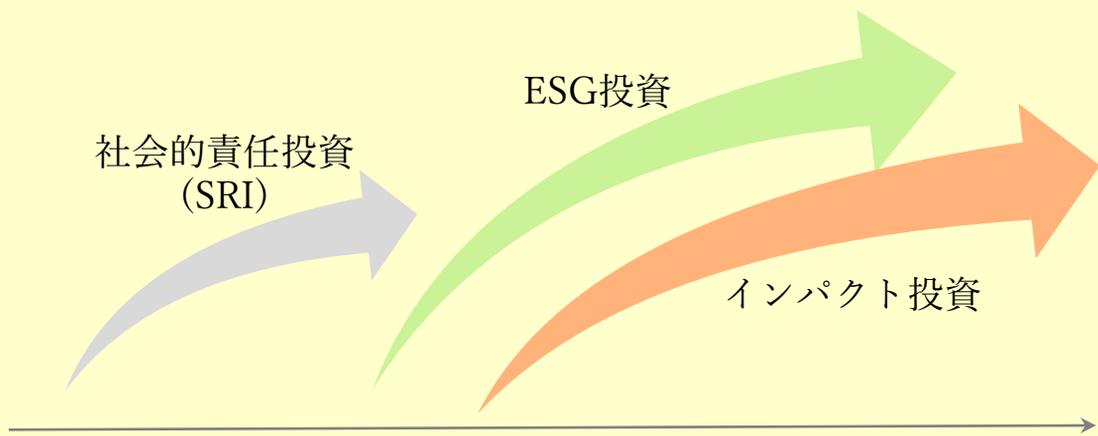
これらの課題を解決するため、インパクト投資の手法を用いて取り組むことは、私たちがパーパスを体現していくための活動とも言えます。第2回以降で、日本の社会課題に関する現状認識や、私たちが取り組むインパクト投資の詳細、具体的な投資事例などをご紹介します。ご期待いただければ幸いです。

◆執筆者プロフィール

2009年にりそな銀行へ入社。
2014年より国内株アナリストとして運用業務を担当し、運輸、建設から自動車に至るまで、幅広い産業を分析。
各企業が提供する製品・サービスに対する社会からの要請度や、企業独自の価値創出力に着目して、持続的な成長性を見極めている。
2021年より「りそなローカルインパクト投資」を担当。
趣味はベランダ菜園。芽が出てスクスク育ち、果実が実るに至るまでの成長力、生命力からエネルギーをもらっている。



インパクト投資への潮流



投資や資産運用において社会や環境への影響を考慮する手法の起源は、1920年代にアメリカやイギリスのキリスト教会が酒・たばこ・ギャンブルなどに関わる企業への投資を除外した際の考え方、**社会的責任投資 (SRI : Social Responsible Investment)**にあると言われています。その後1960年代後半からは、人権問題や環境問題への関心の高まりとともにSRIの裾野は広がり、社会運動や学生運動の活発化による影響も受けて、**企業の社会的責任 (CSR : Corporate Social Responsibility)**を追及する株主行動が広がりました。

その流れは、2006年に国連の主導で発足した**責任投資原則 (PRI : Principles for Responsible Investment)**により新たな展開を迎えます。責任投資原則では、**環境・社会・企業統治 (ESG : Environmental, Social and Corporate Governance)**の課題を従来の投資分析と意思決定のプロセスに組み込むことにより、持続可能な金融システムを構築することを目指しています。それを具体化する投資手法として**ESG投資 (ESG Investment)**という言葉が誕生しました。

時を同じくして誕生したのが**インパクト投資 (Impact Investment)**です。インパクト投資という言葉は、2007年にロックフェラー財団が開催した国際会議で誕生しました。2013年のサミット(議長国：イギリス)において「G8社会的インパクト投資タクスフォース(その後Global Steering Group for Impact Investment (GSG)に改称)」が創設され、現在は世界各国に設置された諮問委員会がインパクト投資の普及啓発活動にあたっています。

SRIの誕生から100年近くの歴史を経て生まれたインパクト投資は、社会の持続的発展を支えるという投資本来の役割に回帰する概念とも言え、今後ますます発展していくと予想されます。

<本資料に関するご留意事項>

■本資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資一般に関する情報提供を目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。■本資料は市場や投資全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。■本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。■投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体としてお渡す「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。